

キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ 奈教生



左下から時計回りに洪さん、春日さん、山口さん、折戸さん

Profile*
プロフィール

教育学部学校教育教員養成課程
言語・社会コース 3回生
おりと だいすけ
折戸 大輔さん 富山県立富山南高等学校出身

教育学部学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 2回生
かすが 9あさ
春日 光さん 長野県立伊那北高等学校出身

教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 2回生
ほん しょう
洪 雪雅さん 私立建国高等学校出身

教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 2回生
やまぐち みなみ
山口 美南海さん 岡山県立岡山護国高等学校出身



キャップからシールをはがす作業をするメンバー

世界の子どもにワクチンをーペットボトルキャップから始まるボランティアー

本学では、ペットボトル用ゴミ箱の近くや事務室に「世界の子どもにワクチンを」と書かれた小さなカゴが置かれています。これは、ペットボトルキャップを回収するために、ボランティア・サポート・オフィスで活動する「あいふた From 奈教」プロジェクトの学生メンバーが設置しているものです。今回は、ペットボトルのキャップを集めてポリオワクチンを購入し、発展途上国の子どもたちに送る活動に取り組んでいる「あいふた From 奈教」プロジェクトのメンバー4人に話を聞きました。

きっかけは身近なところに

「普段よく使われているペットボトル。ペットボトル本体は一般的にリサイクルされているけれど、キャップはあまりリサイクルされていない。キャップがそのまま大量に燃やされるのは環境に良くない」「発展途上国の子どもたちに何かできないか」この2つの考えが一致する活動として「あいふた From 奈教」プロジェクトが始まりました。

最初の活動は、平成20年10月31日からの大学祭でのキャップ回収、3日間で80個程集まりました。その後、継続的に学内に回収ボックスを設置して本格的にキャップを回収し始めると共に、大学周辺の小学校・幼稚園・病院・NPO団体などにも協力を依頼、より多くのキャップを集めることができるよう努力を続けました。次第に大きな袋にたくさんのキャップを持って来てくれる団体も出てくるようになり、活動を始めて2年と少し、平成23年2月11日にはポリオワクチン1000人分相当（キャップ80万個）のキャップ回収を達成。NPO法人エコキャップ推進協会よりエコキャップ活動学生団体として認定されました。その後も順調に回収を続け、10月11日現在でワクチン約1297人分、約104万個のキャップが回収されています。

新たな一歩

最近では、キャップを集めてワクチンを送る活動だけでなく、活動を広めるために、更に一歩進んだ活動も行っています。その一つが、キャップを再利用した商品の開発です。「多くの方がこの活動に意欲を燃やしていただけるように、また子どもたちの意識を高めることができるように、集めたキャップで身近なリサイクル商品を作りたい」とのプロジェクトメンバーの声にメーカーが賛同し、水性ボールペンとマーカーペンの共同開発が実現しました。開発されたペンは早速7月30日に実施されたオープンキャンパスで配布された(P.21参照)ほか、協力団体等の記念品として各団体から好評を得ており、より一層活動の輪が広がるかと期待されています。

今年2月には、キャップ回収協力で関わりのある近隣小学校で、キャップ回収からワクチンを送るまで、そしてキャップがリサイクルされるまでを紹介する出前授業を実施。また、活動やキャップがリサイクルされるまでの様子をまとめた資料を作成、2学期からの総合学習や社会科の授業で使用してもらえればと大学周辺の小学校に配布しており、依頼があれば出前授業も行う予定にしています。

活動はまだ途中

これからの目標として「子どもたちにペットボトルや空き缶などの大量生産、大量消費は良くないということを知ってもらいたい。キャップの回収・リサイクルは、ペットボトルの大量生産・大量消費が前提にあり、今後は大量生産、大量消費をやめようということになればよいと考えています。」とプロジェクト代表の折戸さんは話します。そのためにも、子どもたちへプロジェクト参加をより積極的に呼びかけると同時に、将来教師として子どもたちを教える立場となる学生たちへの呼びかけも重要です。

発展途上国の子どもたちを救うために、また無駄のない社会を目指して、プロジェクトメンバーの活動は続きます。

